



は づ しょう 羽津小だより

令和7年9月17日 発行

四日市市立羽津小学校

文責 校長 酒井 智子

No. 5

ぜんこくがくりよく がくしゅうじょうきょうちょうさけっか 全国学力・学習状況調査結果

今年度の全国学力・学習状況調査は、4月17日(木)に全国の小中学校で実施されました。この調査は、学力向上を目指して、指導内容や指導方法の改善、生活指導に役立てる目的で行われているものです。本校でも6年生が、国語・算数・理科の3教科と児童質問紙(生活習慣や学習環境に関するアンケート)による調査を受けました。その全国学力・学習状況調査の結果の分析を行いました。調査から測定できるのは、子どもの学力の一部であり、学校の教育活動の一側面ではありますが、そこから見えてきた本校の特徴についてお知らせします。

1. 学力調査からみられる羽津小学校の特徴(強みと弱み)

【国語】全国平均正答率を上回る結果となっています。

- 「話すこと・聞くこと」の領域の正答率が全国より高い数値だった。「伝え合う内容の検討」「意図に応じて話の内容を捉える」の設問の正答率が全国値より10%以上高く、よく聞き考え伝え合う力が伸びてきたと考えられる。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が高く、漢字の力がついてきている。
- 全国平均との比較を経年で見ると、R3年度より継続して全国平均を上回っている。このことから、本校の国語の学力が安定しているといえる。
- 「事実と感想、意見とを叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること」と「情報の扱い方に関する事項」の設問の正答率が低く、文章構成の理解・要旨の読み取りと情報の関係付けや図などによる表し方の理解が不十分である。
- 問題形式で見ると、記述問題が全国平均よりも無回答率が高い。

【算数】全国平均正答率と同等の結果となっています。

- 全体の平均正答率は全国と同等であるが、正答数の分布をみると、16問中7～13問正答の割合が高く、下位層の割合が低いところが強みである。
- 「図形」領域の正答率は全国より高い数値だった。「角の大きさについて理解しているかどうか」の設問では全国と比べて約7%高かった。グラフの読み取り・データの活用・図形の理解・計算などの設問でも全国平均を上回っており、力がついてきている。
- 「思考・判断・表現」のポイントが全国と比較して低い傾向にあった。単純な計算能力は高



いが、変化する数量やその関係性をとらえたり、問題の解決方法を自分で組み立てていったりするというような複数の情報を絡めて考えることに苦手な傾向があることがわかる。

- 問題形式別の正答率では、記述式が全国より下回った。どのようにして答えにたどり着いたか表現する力が不十分と考えられる。

【理科】全国平均正答率を上回る結果となっています。

- 「知識・技能」の問題では、無回答が少なく、短答式の問題は正答率が70%を超えていることから、理科の学習が定着していることがわかる。また、学習したことを用いて問題を解こうとする意欲がもてているといえる。
- 「実験の方法を発想する」「結果を予想する」「理由を考察する」という設問では、正答率が80%を超えており、理科の授業で繰り返しおこなっている「問題把握→予想→結果→考察」の順で思考する力がついていると考えられる。
- 「実験の結果を基に結論を導いた理由を表現する」「根拠を基に解決の方法を発想する」の設問の正答率は全国に比べて低く、力が弱いことがうかがえる。また、同問題では無回答率も高いことから、「思考・判断・表現」の力が不十分である。

2. 児童質問紙からみられる特徴（学習・生活の状況に関して）

- 生活習慣に関する「朝ごはんを毎日食べている」「毎日決まった時刻に寝ている」「毎日決まった時刻に起きている」の質問の肯定回答率が高く、生活習慣が整っている児童が多いことがわかる。
- 「自分にはよいところがあると思いますか」は全国比よりもやや高い。2年連続で全国比より低かったが、今年度上昇している。
- 「人が困っているときは進んで助けていますか」「人の役にたつ人間になりたいですか」の質問の肯定回答が95%を超えている。積極的に人を助け、人のためにできることをやりたいと考えている児童が多いことがわかる。
- 「自分と違う意見について考えることは楽しい」「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の肯定回答率が、80%を超えており、全国よりも高い。友達と話し合いをしながら、自ら学ぶ姿勢がついてきていることがうかがえる。
- ICT機器の活用についての質問の項目で、どの質問も肯定回答率が全国より高かった。積極的にICT機器を活用し、子どもたちの活用能力がついてきている様子がわかる。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないと思いますか」の質問に対し95%の児童が肯定回答をしている。しかし、「どちらかといえば当てはまらない」と答えた児童がいることに注目して取り組む必要がある。

3. 調査結果をふまえた今後の取り組みについて

全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえて、全学年で子どもたちが主体的・対話的に学んでいけるよう、授業改善に取り組んでいます。また、「子どもが自ら学びを調整する力」を育てることが大事だと言われています。例えば疑問に思ったら、タブレットを使って自分ですぐに調べる、自分の伝えたい方法で発表原稿の準備をする（写真、イラスト、動画、グラフ、表）、自分で決めた課題に取り組む（苦手問題・発展問題に挑戦：ドリルパーク）などです。本年度の結果に主体的に取り組む姿がやや表れてきていると思います。さらに一人一人が自分の学びたいことを決め、主体的に学ぶ姿を目指したいと思います。

これまでの調査から、子どもたちの自己有用感・自尊心が高いと、学力向上につながることがわかっています。とても頑張った時や、その結果だけをほめるのではなく、「今できていることを認める」「あなたのよいところは〇〇だよ。」「〇〇してくれてありがとう。」などをこまめに伝えていきたいと思っています。その上で、「がんばってよかった」「やればできる。」という達成感が持てるよう、子どもたちに声掛けをしていきたいと思っています。ご家庭でも子どもたちの自尊心が高められるよう、今後とも協力よろしくお願いします。



担任交代のお知らせ

9月1日より、育児休業より復帰しました大川湧登教諭が3年3組の担任を務めさせていただきます。今まで担任していた磯貝和紀教諭は、9月16日より育児休業ためお休みをいただいています。該当クラスには事前にお知らせしていましたが、全校へのお知らせが遅くなってしまいました。申し訳ありませんでした。

放課後の電話対応時間の変更のお願い

10月1日より、職員の定時退校日（毎週水曜日）の放課後の電話の対応時間を17時までとさせていただきます。

水曜日以外は今まで通り18時までとします。緊急の場合は四日市市教育委員会へご連絡ください。緊急以外の連絡は次の日の7時45分以降あるいはお便り帳等でお知らせください。職員の時間外労働縮減のためご理解ご協力をいただきますようお願いいたします。

